

県北 どらくろあ

第86号 2023年5月1日（毎月1日発行）

芸備線ストロール⑱

「桜巡りの旅——校庭の金治郎さんから天神様の参道まで」

ラジオのニュースで、例年よりも桜の開花が早いことを報じていた。わが家のテレビは、もう何年も前に壊れたまま放置しているの

で、映像で見ることができない。いくら早いと言っても、県北の桜はまだ先だろうと思っていたら、近所の桜がどんどん咲き始めて、3月末には満開になってしまった。予定を一週間前倒しにして、4月3日の月曜日に、芸備線沿線の桜巡りの撮影に出かけた。

車で通り過ぎただけだが、昨年レポートした高駅の前の樹齢90年を超えるソメイヨシノや、西城の川沿いの遊歩道の桜並木も満開時



を過ぎ、花びらが舞っている。比婆山駅の手前にある旧・美古登小学校のそばに車を停めた。桜の木の下に、二宮金治郎像（写真上）が建っている。台座に「昭和十三年七月建立」の文字。二宮尊徳（金治郎は通称）は江戸時代後期の経世家、農政家、思想家で、薪を

背負いながら本を読む姿は、勤勉な孝行息子として道徳教育の題材になった。時代の流れで、今は二宮金治郎像のない小学校も増えていくというが、変わり種では、座像の二宮金治郎像も登場しているらしい。本を読みながらの歩行は危険で、歩きスマホを助長する……、世相も移り変わっている。閉校になり、学友のいなくなった金治郎さんは、やはり寂しそうに見える。

備後落合駅を通り過ぎて、小鳥原（ひととばら）第一橋梁が見渡せる場所に出た。高さ30メートルで中国地方では一番高い鉄橋である。桜と一緒に鉄橋の写真を撮りたかったのだが、芸備線では標高が一番高い道後山駅（海拔614メートル）の近くなので、さすがに桜は三分咲きぐらい。一週間後に再訪して撮影した（写真中）。列車が鉄橋を渡っていると、ころを撮りたかったのだが、備後落合駅—東城駅間は現在、不通になっている。3月23日、午後7時半ごろ、備後八幡駅と内名駅の間の下り線で、備後落合駅に向かっていた普通



列車が落石と接触し、一部の車輪が脱線する事故があった。JR西日本の発表では、運転再開は5月下旬を目指すという。2020年3月にも、土砂崩れによる車両の横転事故が起きている。山間地の路線管理はかくも難しい。

小奴可の要害桜を見に行ったが、エドヒガンザクラなので開花は遅く、一週間後に再訪したが、今度は盛りを過ぎていた。五百歳を超える老雄の花勢はさすがに衰えている。その代わりに、東城川（成羽川）の沿岸八重の枝垂れ桜（一頁写真下）が満開だった。小奴可研修センターのそばにある並木である。まるでピンク色の滝のようだった。

東城町の桜並木も壯観だった。町中を流れる東城川は、有栖川という優雅な呼び名もある清流だが、満開の桜並木（写真上）が華やかさを増している。「東城まちなみ春まつり」の開催期間中（4月1日〜4日）で、商店街の一角で売られていた手彫りの置物を安価で購入。対になった二体の狛犬（？）で、迫力ある容姿が気に入って自店内に飾っている。

県境を超えて岡山に入る。国道182号線の市岡駅の手前にある「日尾山八幡神社」の参道を登った。石の鳥居をくぐって石段を登ると芸備線の上に出て、さらに50段を超えると石段を登りきると広々とした「憩の丘公園」がある。この桜並木を期

待して来たのだが、衰弱した老木が多く、花をつけている枝はまばらだった。人間のために人工的に植生したソメイヨシノは、愛でる人もなく、手入れする人もなく憐れだが、それでも健気に咲く花は美しい。高速道路の上にかかる「八幡橋」を渡って神社に参拝した。

182号線を先に進むと「哲西浄化センター」の標識。国道と神代川が並走する川の土手が立派な桜並木で、見ごたえがある。知る人ぞ知る桜の名所という感じ。下水処理施設という負のイメージを改善する目的か。カメラマンが一人、三脚を立てて撮影していた。

さらに東進して、坂根駅の前に車

を停めた。中国縦貫道路の側壁のトンネルをくぐって駅前に出るので、隠れ里に入り込んだような気分だ。隣接する公民館「坂根分館」の庭の立派な枝垂れ桜が満開で、駅前のソメイヨシノと相まって、どこか神秘的な雰囲気（写真中）。昔の古い駅舎が残っていたらと想ってしまふのは、旅行者の我儘だろうか。

最後に訪れたのが「岩屋天満神社」の参道。新見市立神代小学校の前を通るのだが、今は春休みで生徒の姿は見えない。校庭の立派な桜の木の下で、子供連れの家族がレジャーシートを広げて花見をしている。楽しそうな歓声に、一人だけの花見に馴染んでいる自分に気づいた。

縦貫道路の小さなトンネルをくぐって、高速道路沿いの山道が参道（写真下）である。桜の木の下で、持参の缶コーヒーで休息。眼下に高速道路が見渡せる。車の種類や各地方のナンバープレートを見るのが楽しい。自分も車に乗って、どこか知らない場所に行きたいという気持ちにくすぶっているのはリセット願望か。

どこに行っても生活のしがらみが絡みついてくる。リセットする度に、キャンパスは元の白ではなく、くすんでしまうことを知ってしまった。ドッコーラセと声をかけて立ち上がる。迷ったが、天神様には参拝せず引き返した。空腹を覚えていた。

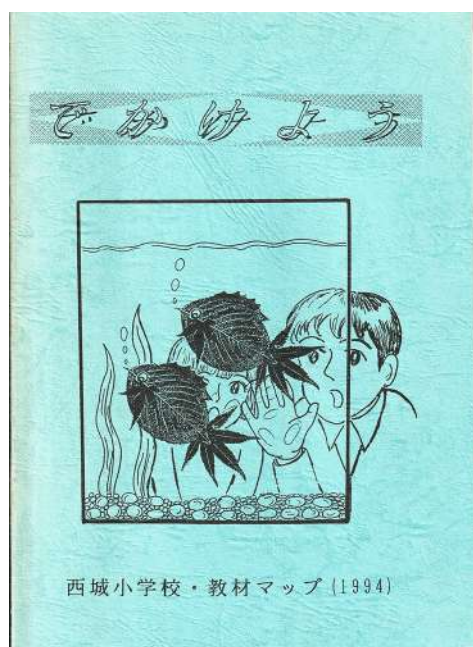
「中村慎吾先生の死を悼む」(後編)

黒長 澳^{ふかし}

比婆山の野外観察

「広島県理科教育研究大会」では午後、備北交通の貸し切りバス数台で比婆山へ移動しました。立烏帽子駐車場で参加者を十班に編成し、「比婆山連峰を探ろう」と、中村先生が雨の場合作を考慮して用意してくださった「中国山地の生物的自然」の冊子を持って、現地で研修を重ねてきた中堅十人の野外観察指導者が、それぞれ池の段、御稜、竜王山方面へと案内しました。

広島県の研究大会で今までにないこの企画は、中村先生の指導がない



ればできないことでした。後に多くの参加者から礼状がきました。いずれも比婆山の紅葉がすばらしかったこと、観察指導者の説明が分かりやすかったことなどが書かれています。なかには、その後職員全員で比婆山の現地観察に行ったとの手紙をくださった校長先生もおられました。当時の観察指導者は、その後県北の教育の推進役として、また、中村先生肝いりの比婆科学教育振興会の会員として活躍されているのは嬉しいことです。

教材マップづくり

三度目は、西城小学校に転勤した年の平成三年十月三十日に、広島県家庭科教育研究大会を開催しています。この大会は公開授業と分科会、講演会を計画通りに実施しました。その後平成五年十月二十九日に、町内で「生活科・理科研究会」を開

催しています。このときは「させる活動」から「する活動」を重視して新設された生活科の目標に沿って、自然に興味・関心を持たせる手がかりを探っていました。

教材マップづくりは、平成五年六月、中村先生に講演をお願いし、「子どもと自然」と題する講演のあと、教材マップについてご示唆いただいたことに始まります。

夏休み中に、当時教育事務所の指導主事だった西岡先生の教えを受けながら、教職員全員が現地研修をしました。その結果まとめられたのが「でかけよう」(左上写真)という冊子です。コースは「校庭を歩こう」、「大富山へ登ろう」、「栗遊歩道を歩こう」の四部構成の冊子です。基本的には、どこにどのような植物があるか分かるように工夫しました。教職員がそれぞれ特技を発揮して、クイズやイラストを入れ、楽しく学べる手引きとなるよう編集しています。西城小学校では今も活用しています。

比和小学校に赴任してご縁をいただいていた以来、中村先生には長年ご指導いただきました。公私にわたってご厚誼を賜りました。感謝しています。中村先生、本当にありがとうございました。

「ぐんぐん伸びよう会」

(教室：庄原市川西町 241 連絡先：080-3631-9125 やないたえこ)

子どもたちは、学校で一斉授業を受けていても、一人ひとりの持っている能力はバラバラですね。子どもたち一人ずつに合わせた学習によって、「できる」が増えていきます。「できる」が自信の源。

もっとチャレンジしてみたい、と思ってもらうためには、年齢に合わせずに個人別に合わせる必要がありますね。

無料体験学習受付中！！ お気軽に問い合わせくださいね。

対象者：0歳～小学6年生



文学探訪

庄原と「百三の青春」④

愛の蹉跎——H・Hへの熱愛と失恋

音谷健郎

百三が「H・H」、つまり逸見久子と出会うのは、妹艶子の書き残した『兄百三』によると、大正1(1912)年の秋、「十月十一日頃」です。久子は、

東京女子大生の艶子の級友です。2人で歩いているのを見た百三が呼び止めたのです。

逸見久子は、妹・艶子の観察では、

「常識的な貴婦人形」の女性。蠟細工のような白い顔。小柄で、鼻が高く、目は大きく西洋人のよう。百三は「理想的な顔」と一目惚れ。

百三は「命の輝き」とばかり、編集に携わっていた一高校友雑誌に得々として彼女に思いを寄せた論文を書きます。これが哲学者を目指していた百三の運命を大きく変えることになるのは、予想もしなかったと思われま

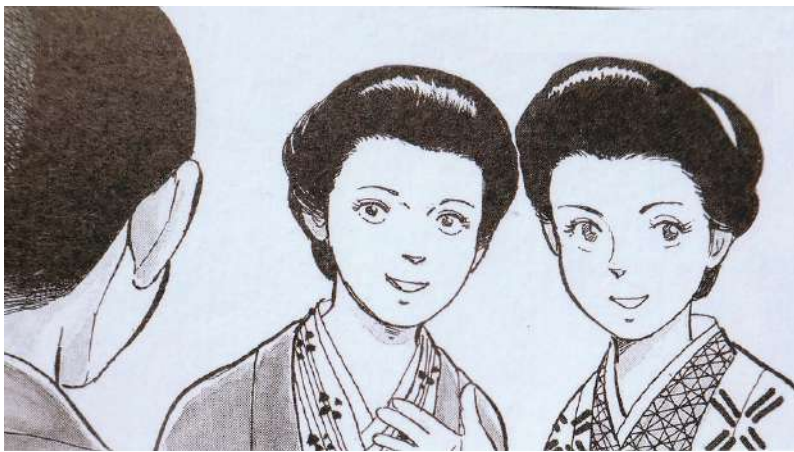
とから脱して」と書き起こします。恋愛の真理を連綿と書き、結語は「私の今後の生涯はこの恋愛の進展的継続でありたい」と結んでいきます。ただし、「私は悪戦苦闘を強迫された。力尽きればやむをえない。自滅するばかりだ」とも語っています。

「私ら」と複数の一人称に加え、殉教者的な自己犠牲の精神が顔をのぞかせているのが特徴的です。作品には、百三のやむにやまれぬ情念があふれ出ているように思えます。このような純度の高い「愛」を希求する姿勢が、様々な誤解を生む倉田百三文学の根幹ではないでしょうか。

この恋愛について、妹・艶子は、「火4のように熱く、しかも純情一点張りのものでありました。実に青年の模範としてよいと思います」と後年に書いています。

もう少し詳しく描いてみます。ここに書き刻まれている「愛」は、徹徹尾、哲学的で抽象的です。どこでデートをしたとか、どんな会話をしたとか、具体的な行為はみじんも描かれていません。ただ、「愛」にかかわる言葉が激して、明治の因襲からは曲解される表現はあります。

例えば「わが霊肉を併せて抱擁する女はなきか」「私の心の隅には久し



百二(手前)が逸見久子(左)と連れだった妹艶子(右)たちに出くわす場面



そのときの百二の表情
(いずれも岩崎健二作画のコミック『倉田百三』から)



妹・艶子。80歳ころ
(倉田百三研究会編「倉田百三」から)

その論文とは、大正元(1912)年2月12日に書いた『異性の内に自己を見いださんとする心』です。副題に「この小編を春に目ざめたH・H氏に捧ぐ」と、逸見久子の名前を想定させています。

日付がなぜ分かるのかというところ、「22回目の誕生日の夜」と断り書きがあるからです。先を急がず、この論文をのぞいてみます。

のつけから「大野の黎明にまつ白い花がぱっと目ざめて咲いたように、私らが初めて因襲と伝説



百三が昼寝した松の木は「千代の松」（市天然記念物指定）として珍重されましたが昭和39（1964）年ころ、枯死しました（「庄原市の歴史」から）

き昔より異なる性を慕い求むるや
るせなきあくがれがひそんでいた」
「生命と生命との慟哭せんほどの抱擁
がほしいのだ」「恋は女性の霊肉に日
参せんとする心である」。恋愛賛歌の
百三の雄叫びと言っているのですが、
これらの言葉が、明治の時代相には
刺激的すぎたようです。

みだらな、性の賛美と受け止めら
れたのです。柔道部や剣道部など運
動部の猛者たちを刺激しました。「鉄
拳制裁をしよう」との動きが出たの
です。
編集部では、百三が書いたこの論
文を追いかけるように、次号の二百
二十四号で文芸部長名で、謝罪文を
載せます。
動きを察した百三は、寄宿寮「向陵」
を逃げ出します。全寮制（自宅から
の通学者は別）のため、寮を出るこ
とは、退学を意味したのです。大正
2（1913）年12月、3年次に相
当する年齢ですが、2度落第してい
るので、「病氣退学」が受理されまし
た。

こういふ交際のまった
だ中、百三が一高校友誌
への4番目の論文『自然
児として生きよーY君
（矢内原忠雄）にあたう』
を寄稿したことは、先の
85号（「どらくろあ」4
月号）で紹介しましたが、
恋愛まった中での論文
として読むと、違った感
慨が湧きます。
目を引くのは、矢内原
への敬愛を持しながら強
い調子で彼を責めている
部分です。重複を覚悟で
紹介します。
「あなたの宗教には肉

の匂いと煩惱の痕（あと）と疑惑の
影とがない。人間味が乏しい。：流
動の趣と野生の姿がない。それとい
うのもあなたの生活意識が常識的で
あって深刻と透徹とを欠くからであ
ると思う」と。
百三の恋愛観が色濃く投影されて
います。百三の中では、1つの事柄
の見方は、総てと連関しているのだ
す。思想家と言っている理由です。
さて、逸見久子との交際はどうなっ
たでしょうか。

百三は、久子を知って浮かれては
かりいたのではありません。やがて
久子に、文学の手ほどきをします。
妹艶子によれば、百三は翌年の4
月から久子を英文学科に変わらせ、
作家にするつもりで、文学的指導を
したのでした。
このつきあいは、1年近く続きま
す。大正2年、再会を約束して夏休
みを迎えた百三の元に、「こちら札幌
で結婚します」との簡単な手紙が届
いたのでした。
落胆で健康を害した百三は、逸見
久子の真意を訪ねるため北海道に向
かおうとします。心配した父が郷里
の庄原から付き添いますが、「この体
では」と病状の深刻さから途中で引
き返します。

やがて、病氣療養で帰郷した百三
は「上野池」湖畔にあり、この連載
に登場した方丈の家で半年、精神の
過労を癒やします。
妹艶子『兄百二』に登場願おう。
兄を奪われた格好となった妹艶子が、
冷めた観察で逸見久子の真実を眺め
ています。
北海道に帰った久子は、家産が傾
いていることを知らされ、資産家へ
の結婚を迫られます。「座敷牢に等し
い室内に閉じ込められて」、百三への
絶縁状を書かされる折檻を受けます。
その後、妹艶子は久子の妹が同じ女
子大に入って来たので、久子に手紙
を託すのですが、久子からは、「以
後こんなことをしないで」と冷淡な
返事が戻ってきたのです。兄のこ
とはひと言も書かれてはおらず、艶子
は、その対応が「寒くなるほどでした」
と記しています。ただこの記憶は、
妹艶子の70年余りの回想であるこ
とをお断りしておきます。

これらの事情を知ると、百三の悲
壮なまでの「思い込み」が、浮かび
上がってきます。
今回は「倉田家の家風——華やぎ
の光と影」を取り上げます。

「植物画とは何か
—日本の植物図譜を中心に—」(17)

ツバキ・サザンカの図は、津山尚 (1979) によると、1934(昭和 9) 年から 1936(昭和 11) 年までに山田壽雄が描いたという。そして、山田が描いた原図を忠実に複製して出版されたのが「石井勇義 ツバキ・サザンカ図譜編・津山尚 図・山田壽雄」(誠文堂新光社、1979 年) である。本書で初めて山田が描いたツバキ・サザンカの 63 図と、鉛筆画に一部彩色された葉と花卉の部分図 12 枚が公開されたことになる。ツバキ・サザンカの前図はすべて 15.1cm×21.9cm の大型図で、ひとつの画面に「ト伴 (ぼくはん)」のように 1 品種のみ描いたものと、ふたつの品種を描いたものがあり、描かれた品種はツバキで 64 品種、サザンカで 44 品種である。いずれもワットマン紙に鉛筆で精密に描き、透明水彩絵具で丹念に彩色し、葉といい、花といい、きわめて写実的に描かれている。

1966 年に出版された「文・津山尚、画・二口善雄 日本椿集」にも「ト伴」(図版 130) が描かれているが、ここでは花をつけた 2 本の小枝が描かれていて、山田の「ト伴」に比べて花をつけた小枝は貧弱で葉の描き方はやや見劣りがする。しかし、二口善雄が描いた「都鳥」(図版 58)(図 1) は、構図といい、花の描き方といい、山田が描いた「都鳥」(第 3 図版、図 6) よりみごとである。これは写生の対象として選んだ「ト伴」と「都鳥」の標本の違いによるものではなかろうか。「日本椿集」に「都鳥」など、227 品種のツバキを描いた二口善雄(1900~?) は金沢市で生れ、東京美術学校(現在の東京藝術大学)洋画科を卒業し、東京大学理学部植物学教室勤務を経て、1966 年は日本山林美術協会会員として植物画を描いていたらしいが、どのような作品があるか、調べられていない。

「日本椿集」が出版された 1966 年には、井波一雄の「日本スミレ図譜」が出版された。本書の序の前段に「当時唯一の有名な牧野氏の日本植物圖鑑(青皮装表紙で定価 15 円)を全冊全図解説文とも読めない字もそのままに刻明に複写して作りなおした経験もあったおかげで、植物図の描き方やコツが独りでのみこめた自信があったので、以来、以降の春ごとに……(後略)」とあるように、井波は「牧野日本植物圖鑑」(初版)で、牧野の技法を自習したと考えられる。それはダイセンクスミレ(図 2)にみられるように全形図を中心に花の拡大図、花卉・果実などの部分図を配置して原図を作成している点、牧野の影響を読みとることができる。その後、井波は 1981 年から 1990 年にかけて、「広島県植物図選」(全 5 巻)を出版した。この「広島県植物図選」は井波の許へ届けられた広島県に自生する植物 500 種の精写な図に簡単な説明がつけられた図鑑である。図はすべて生品に基いて精



図1 都鳥(画・二口善雄「日本椿集」より)

密に描かれ、描かれた植物図は奇数ページに、偶数ページは解説に当てられ「広島県植物図選」は見開きとなっている。樹木は花をつけた枝の全形図を中心に、花の部分図・解剖図、時には枝の断面図を空間へ無駄なく配置している。大型草本は根を省いて描いているが、小型の草木は根の細部まで描いている。サンインスミレサイシン(図 3)は、花をつけた株の全形図と結実し、すっかり展葉した株の全形図を中心に花の部

著者紹介…一九三一年、比婆郡(現・庄原市)比和町に生まれる。農学博士(九州大学)。昆虫や動物植物などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びと」(シンセイアート出版)から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。

分図などを配置し、みごとな出来映えの植物図である。

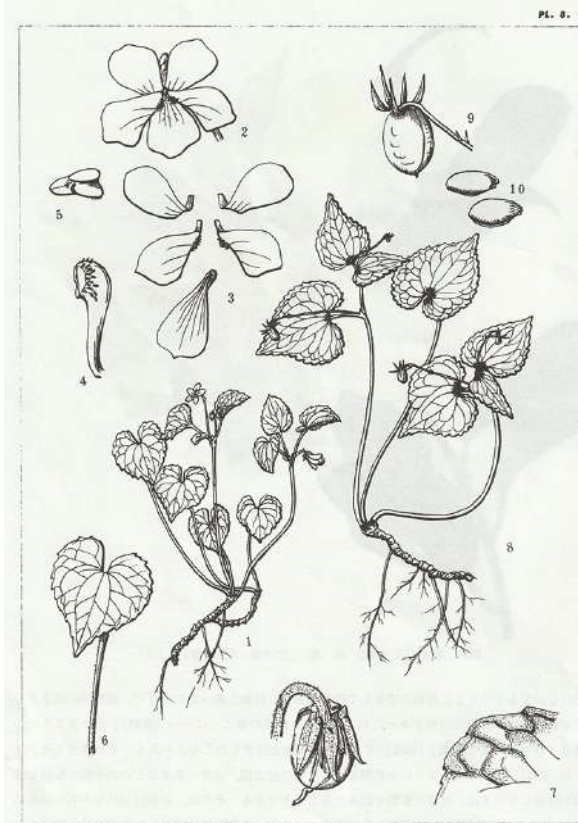


図2 ダイセンキシスレ
(井波一雄著「日本スミレ図譜」より)



図3 サンインスミレサイシン
(井波一雄著「広島県植物図選III」より)



「つれづれ歌談」35

松岡初枝

日射しも強くなり、何をするにもよい季節です。今私は七十四歳、そう言えば山上憶良が数え歳で七十四で亡くなったのを思い出しました。当時ではかなりの長命だった憶良ですが、死の直前には明るい光には目もくれず、世間（よなか）の術なきもの……で始まる長歌で、老いを見つめる自分を歌に詠んでいます。

・土（おのこ）やも空しくあるべき万代（よろずよ）に語り継ぐべき名は立てずして 山上憶良
死の床にいた彼は、没した時が従五位下筑前守なので中流貴族、男ならもつと出世したかったと訴えたのです。しかし歌人でもあった彼の名は、今でも不朽です。

・天（あま）なるや月日の如くわが思（も）へる君が日にけに老ゆるく惜しも 作者不詳

天の月や日のように敬っているあなた、日に日に老いてゆくのは本当に惜しいことです。よき夫婦であったであろう二人、こんな歌を詠んでもらった夫は幸福です。
・かくしてやなほ老ひなむみ雪降る大荒木野の小竹（しの）にあらなくに 作者不詳

雪の下の小竹のように私の腰も曲がってしまい、老女になった今、積み重ねた月日が空しかったかしら。老いは誰にでも来るものですが、力強く歳を重ねた人の歌もあります。

・物皆は新しき良しただしくも人は古（ふ）りにし宜しかるべし 作者不詳
品物は新しいのがよいが、人は何と言っても歳を重ねるのもいいんだよ。そうそう知恵者が蘊蓄をひとつ……。「スマホで検索します！」

大伴家持は六十八歳で東征將軍として赴任中の多賀城で没しました。その後一族の者が事件を起して家は没落、タッチの差で知らずに死んでよかったですね。

一冊の本がある。上林暁の「文と本と旅と」。かんばやしあかつきと読む。昭和期を代表する私小説作家のエッセイ集である。高知県出身で本名は徳廣巖城（とくひろいわき）、本名の方がよほど威厳があつて作家らしい。東大の文学部を卒業後に大手出版社の改造社に入社。改造社では、従業員の執筆活動を禁止していたために、筆名を用いたようだ。ちなみに上林は、熊本県の第五高等学校に通っていた頃に、熊本市上林町に下宿していたことに由来する。

この本を持って来たのは本田さんだ。七十歳を過ぎて今は年金暮らしだが、地元の高校で「公民」の教師をしていたらしい。

公民？ 聞きなれない科目に怪訝な顔を見ると、社会科が分科されてきた科目だと説明してくれた。小・中学校までの社会科が高校で「地理（地理・歴史）」と「公民」に分かれて、公民では「現代社会（今は公共）」「倫理」「政治経済」を授業する。

酒もギャンブルも女遊びもしていないであろう本田さんの唯一といつてもいい趣味が「本」だった。分科すると「読書」と「初版本」になる。熱心な初版本のコレクターで、芥川賞や直木賞、本屋大賞の本は必ず二

冊、買い求める。一冊は保存用で、もう一冊は読書用である。

新しい本ならすぐに手に入るが、昔の初版本は希少で、骨董品並みの価格が付いている本もある。いくら欲しくても一万円以内、本田さんが自分に課したルールである。「金の力でかき集めるのは下品です。自分で掘り出し物を見つけるのが楽しいんです」

悪友

現代御伽草子 ⑧〇

あきふゆひこ
亜木冬彦

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

そう言ったあとで「貧乏人の癖みです」と苦笑した。

本田さんがどうしても欲しい初版本があつたという。昭和三十年代の半ばに出された時代小説で、帯付き、サイン入りで八万円の値段が付けられていた。

「帯がかっこいいんです。色もデザインも素晴らしい。『幽玄なる桃源郷への道標！』、宣伝文句もしゃれていま

賞作を持っているのだという。

ある日、本田さんが背広にネクタイ姿で来店した。どうしたんですかと尋ねると、これから病院に入院するのだと言う。心臓の環状動脈が細くなっているようで、バイパス手術を受けるのだと説明してくれた。

「この本を引き取ってもらえませんか……」

本田さんが差し出したのが、「文と本と旅と」だった。傷んだ表紙をハトロン紙でカバーしている。五月書房というマイナーな出版社が、売れる作家ではなかった上林暁の文壇での立ち位置を表している。

本田さんはこの本を読んで、本探しや古本屋巡りの楽しさを知った。下戸の本田さんは、作者の酒友との愉快な交歓を読んで酔酩した。作家仲間の井伏鱒二や太宰治と一緒に旅する紀行文に、雄大な富士山の姿を思い描いた。孤独癖の強い本田さんにとって、この本は恩人であり、親友だった。

「貧乏学生で、魔が差したんです……」

古本屋から万引きしてしまったことを告白した。家庭教師をクビになって、気持ちが荒んでいた。生涯で一度だけの盗みだという。「そんな

な自分が、偉そうに倫理の授業をしていたんですからね」と本田さんは自嘲する。

万引きした一か月後に本田さんは、その古本屋を再訪した。謝罪して本の代金をちゃんと払おうと思っていた。警察に通報されることも覚悟した。しかし、古本屋は潰れてラーメン屋になっていた。

この本を見る度に、本田さんは罪悪感に苛(さいな)まれた。何度も処分しようと思った。しかし、できなかった。人生の恩人を、無



二の親友を、捨てることなどできない。かくしてこの本は、本田さんにとっては腐れ縁の悪友にもなってしまったのである。

入院前に手術同意書に著名捺印したときに、自分がそのまま死ぬかもしれないのだということを本田さんは意識した。だとしたら、その前にこの本を処分しておきたい……。

わたしは、どうするべきか考えた。古本屋であれば買取が基本だろうが、本田さんが代金の受け取りを拒むことはわかっている。貰ってしまえばいいのだろうか、万引きした本を商品として店頭で並べるのは、法律的にも道義的にも、そして気分的にも抵抗が大きい。廃棄処分は、本の価値を考えれば論外だ。

結局、本が売れたときの代金を寄付することで決着した。ドアの前のワゴンに、店に持ち込まれた中古の食器などの日用品を並べて、一つ十円で寄付を募っている。毎年、東日本大震災の法要を行っている地元の寺院があり、少額だが集まった寄付金を委託して、復興支援金として役立ててもらっている。

わたしが付けた本の値段は、三千五百円だ。最初は店頭で販売して、売れないようならネットに登録して

みるつもりだった。その前に役得で、自分で読ませてもらった。

「モデル」と題された一文に、「永代美知子」という名前が出てくるのは驚いた。晩年を庄原市の川北町で過ごした女流文学者の岡田美知代のことである。「美知子」は作者の勘違いか。田山花袋の「蒲団」のモデルになったことは有名で、マスコミにスキヤンダルな取り上げられ方をした被害者でもある。

「ありのままに書かれるにしても、小説のモデルになることは、多くの場合、本人にとっては有り難くない、はた迷惑なことになり勝ちである。小説家というものは、多かれ少かれ、そうしたはた迷惑を周囲にかけている人種だということが出来よう。」

作者は、私小説に書いてしまったゆえに、気まづくなってしまう人がいることを吐露している。「本道楽」の中に一行だけが、倉田百三の「出家とその弟子」が出てくるのも嬉しかった。

読み終えて、わたしは寄付を入れた瓶の中に、三枚の千円札と五百円玉を入れた。自分で購入したのだ。本田さんには内緒で、この悪友を自分の本棚に入れるつもりである。

まつの古本屋さん どろ書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
- ・地元の絵葉書、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。

※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日（2月は店内整理で全休）
- TEL: 090(9913)3052
- 営業時間 9:30～18:30

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

「旧暦」のカレンダーを見る

古川行洋

九 明治の改暦

ペリーの浦賀来航以来、諸外国から開国を迫られ、外交関係を結ぶようになって、新政府は「こよみ」の

る太陽暦（新暦）としたことである。この「明治の改暦」が行われたことで、「旧暦」「新暦」の区分けがされ今日に至っている。

違いに一番困ったのである。そういったなか、時の政府は明治四年から六年頃にかけて、鉄道の開通、郵便の創始、徴兵制の実施、地租の改正、学制の改革が次々と断行されていた。その中で、国民をもっとも驚かせたものが、太陰太陽暦の天保暦（旧暦）を廃して、今日我々が使っている

経緯（いきさつ）について、歴史を辿ってみると、先に記したように外交上、日本何年何月何日、西洋何年何月何日と両様の日付が必要になるし、年度やら休日の違いから、トラブルが絶えなかった。幕府は英国航海暦を翻訳して『万国普通暦』を刊行した。こうして、実際に欧米諸国の実施している太陽暦（グレゴリオ



才暦、ロシアだけはユリウス暦）に接してみると、その簡便なことと、広く世界各国で流通していることを知って、しだいに太陽暦採用の意見を持つ者が出てきた。そして、明治政府の誕生によって、改暦の主張が浮上し

てきた。政府を介して改暦の気運は高まっていた。そんななか、文部省の所管の天文局は、頒暦行政の円滑化と政府収入の安定をはかるために、全国の頒暦者たちを統合して、東京と大阪に東西の頒暦商社を設立させた。明治五年四月である。

当時は、十月一日になると、翌年の「こよみ」が発行され、人々は我先にこの「こよみ」を買い求めたのである。旧暦においては、毎年大の月（三十日）と小の月（二十九日）の配列がことなり、しかも二、三年ごとに閏月があつて、一年が十二ヵ月になったり十三ヵ月になったりする。そのため、人々はできるだけ早く来年の「こよみ」に手を入れ、いろいろな計画を立てる必要に迫られていたのである。

明治五年の冬も、例年のように、全国の暦屋から政府編纂の「こよみ」が売り出されたが、明治六年は閏月が予想されていたので、例年より「こよみ」の売れ行きはすばらしくよかった。

ところが、明治五年十一月九日、政府は突如改暦の詔書を発表し、同時に太政官の布告をもって、来る十二月二日を明治六年一月一日とすることを布達した。この年の十一月の

日付は、太陽暦十二月とちよど一ヵ月遅れていた。改暦の原因は財政問題にあつたと、ときの大隈重信参議のちに告白している。政府の財政は相次ぐ新施策実施で火の車だった。明治四年から俸給を年俸制から月給制に改正していた。そして、明治六年は閏年になる。

そこで、いささか乱暴なやり口だが、この際思い切つて太陽暦にして政府財政を救う道はこれしかない。さいわい、岩倉具視を始めとする政府首脳は欧米諸国視察に出ている。その先から、諸外国の「早急の改暦要求の旨」の手紙を受け取っていた。留守を預る政府にも、実施において波乱はあつた。

このシヨックと混乱は、庶民にとっては筆舌につくしがたいほどであった。この世相にあつて、福沢諭吉が半日で書き上げたと言われる『改暦弁』（太陰太陽暦の仕組みを説明した）を刊行した。県知事のなかには、この本を一括買い上げて管下に配布したのもあつた。

結局、政府の代わりに太陽暦の簡便さや改暦の必要性と利益とを説いたのは、福沢諭吉などの文明開化の啓蒙家たちであつた。

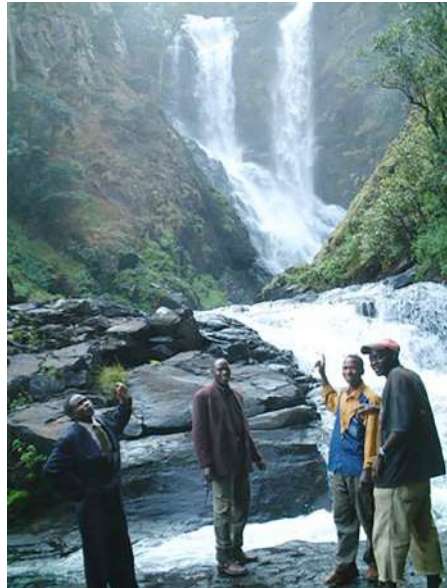
「お祭りの旅行商品化と 日本での健康診断」

山崎 允まこと

ザンビア赴任後9か月が過ぎ、2003年7月になった。一年に一度の健康診断のため帰国する月だ。でもおかしい……。私の心は「日本に帰るのでなく、行く」日になっている。家族がいるのに……。祖先の墓があるのに……。何故「帰る」でなく「行く」なのだろうか？

ツアーコンダクターとして50数年に出かけたときにママがよく言っていた。「お父さんは現地人になりきってしまったので、日本に帰って来ないのではないかと思う」。赴任する数か月前まで生徒を前にして、地球儀を見せながらの講義で「いいか、地球上総てがみんなの住むところなんだ。便宜上、『日本』というところに居るだけなんだ。太平洋なんて大きな池にすぎないのだから……。」という口上で講義を進めていたものだ。

2泊3日のザンビア共和国・中央州への視察旅行を終えた。目的は先回の視察旅行で知り得た毎年行われるお祭りを旅行商品化することに



あった。宿泊施設のロッジに行き、値段の交渉し、予約をすること、途中のトイレット・ストップ場所探し、昼食出来るレストラン探し、お祭りで特別席を作ってもらい座席を確保する。総てうまくいった。写真は、そのツアーに入りたい「山鳩の滝」、行くまでの道の安全確認をした。「ククルー、ククルー」と鳴く山鳩がいるのでクンダリラ（山鳩）・フォールズという名前がついた。

私の新しいカウンターパート（写真左端）は、国家公務員であるとの意識から、ロッジやレストラン等の

関係者に高圧的に話したりする。我々が宿泊しようとするロッジが混んでいる部屋はベッドと裸地球のみだった。彼は怒って、フロント係に「もっとよい部屋をよこせ、さもなければタダにしる」と交渉していたようだったが、「予約が一杯で繁盛しているじゃないか、政府の役人ならそれくらいの判断が出来ないといけない」と別室でなだめたりもした。彼の自尊心を傷つけないよう気を使って、適時注意をした。

一か月余りの日本での「健康診断休暇」の間に、JICA指定の「メディカル・チェック」を受けた。ザンビアから病院に電話して、帰国翌日に胃カメラでの検査を予約。バリウムを飲んでの検査では、結果が出るまで一週間かかり、再検査が必要になると一月の健康休暇では足りなくなってしまう。

その他にJICAからエイズ検査を指定された。ザンビアは世界で一番エイズの罹患率が高い国という不名誉なレッテルが貼られていた。性交渉や、感染者の血液に接触する以外にも、母子感染がある。交通事故などでケガしている人を助けようと素手で

触ったりすると感染することがあるので、車のコンソール・ボックスには薄手のビニール手袋を備えていた。幸い、日本滞在中のすべての健康検査は無事に終了した。

夏本番の日本を後にして8月20日、香港から13時間のフライトで南アフリカのヨハネスブルグ空港に降り立つと、空港職員がオーバーコート、マフラー、手袋のいでたちなのにびびり仰天。日本とは赤道を挟んで北と南に分かれているため四季が真反対なのである。余りの寒さに驚いた。ヨハネスブルグから北に2時間のザンビア・ルサカ空港は、赤道に近くなったので暖かさを取り戻した。上着を着たり、脱いだりして調節した。自宅に帰り着くと大型のインコが「ガー、ギー、ピー……」の挨拶で迎えてくれた。観光省の上司に挨拶。すると、「今回は何を土産に持って帰ってくれたの？」。上司への個人的な土産のことなのか、日本国からザンビア共和国に対する「援助等」のことなのか、すぐ返事ができずに困ってしまった。「demanding」（何かを要求する）この国の挨拶用語に過ぎないと思えるに至ったのは、数か月たったからだだった。

どろくろ俳壇&歌壇

※参加を歓迎します。

菊を入れ句集を入れて柩閉づ

近藤 昌平

葉桜やベンチにいつもの老夫婦

富久光

奇跡にも見える野球や桜咲く

片岡 正人

飛び起きて顔を洗うや目借時

隆愚

春天に舞ふは侍ジャパンたち

大槇 三代子

この匂い想いめぐらす蓬かな

寺内 龍二

桜の便り転居先は天国なり

赤川 冬人

桜咲き野球も笑きて浮きうきと

松岡 初枝

日本の春は今盛りなり

います。

候のことば

隆愚

「旅と恋文」

松尾芭蕉が「おくのほそ道」へ旅

立った旧暦の元禄二年（一六八九年）

三月二十七日（新暦の五月十六日）
にちなんで、この日を旅の日として

です。

月日は百代の禍客にして行かふ年

も又旅人也（松尾芭蕉「おくのほそ道」より）

五月二十三日は、五（こい）二（ぶ）

三（み）の語呂合わせで、ラブレターの日。そして、日本で初めてキスシーンが登場した映画「二十の青春」の封切り日（昭和二十一年・一九四六年）だから、キスの日でもあるそうです。ラブレターとキスも同じ日なんて、ずいぶんせっかちな恋のようですね。

「なぜ伐った」 はらひろみ

この両参道脇の巨木杉

それは稀にみる大きさだった

虚弱だった僕は

お百度参りしたことがあったから

今でもはつきり覚えている

急な長い石階を歳の数だけ上り下りした

動くものは何も見えない

僕の足音だけが影絵のように聞こえた

参道の中ほどにうっすらと

明け方の光が見え始める

僕は最後の祈りの手を合わせる

杉の巨木に囲われて僕は家路に急ぐ

まだ誰にも会わない

小鳥の声も聞こえない

村の神社の巨木杉

「ぼくは見ていた」

はらひろみ

土橋の上から

僕は見ていた

枯れ葦の茂みへ鯉が入るのを

僕は見ていた

尾鰭を少しくねらせて

茂みに消えた

それっきり姿を見せない

僕は見ていた

橋の上から



どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

— 硬式テニス参加者募集 —

MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)

場所：三次運動公園の屋内&屋外コート

・火曜日 (9:30 ~ 12:00)

・水曜日 (9:30 ~ 12:00)

・土曜日 (10:00 ~ 12:00)

連絡先：中川 (☎070-8991-1682)



《情報&原稿を募集します!!》

- 仲間募集
- 教室&講座案内
- イベント情報
- あなたの大切な本の紹介
- ボランティア・ライター(現地記者)募集!

※応募先はどら書房・赤川まで。

掲載は無料です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

みんなの食堂

ワンコイン (百円) でおなかいっぱい食べられます!

日時：5月27日 (土) 11時~14時

(毎月第4土曜日開催予定)

場所：庄原市保健福祉センター (体育館前)

西本町4丁目3-1

料金：一人百円 (先着50食、予約不要)

主催：みんなの食堂実行委員会

(代表・赤堀由美子 080-5627-2148)



徳岡政暁 陶芸作品コーナー

陶芸家、画家 (徳岡佛性坊) として多彩な活動をしてきた故・徳岡政暁氏の陶芸作品の展示販売を、どら書房の一角でしています。

茶碗や花器、陶板や料理皿、多様な作品を展示しています。あなたのお気に入りの逸品が見つかるかもしれません。

※天井が低いので頭上注意!

どら書房無人野菜販売コーナー

新鮮で安全な野菜を店頭で販売 (値札のないものは百円均一)。
毎週水曜日の朝に入荷予定。

●黒ニンニク好評販売中!●

(青森産ニンニクホワイト六片使用)

甘みと適度な酸味、ニンニク臭さはありません。
ポリフェノールを含み、抗酸化作用、滋養強壮などの
効果が期待できます。

(80g入り 500円)

※売り切れのときはご容赦ください。

発行：どら書房

〒727-0012

庄原市中本町 2-1-10

☎090(9913)3052 (赤川)

e-mail: touzin@nifty.com

誌面デザイン: ROUTE183

協賛: 九日市愛好会

編集後記

◇今年の桜、県北はまだまだ先だろうとのんびり構えていたら、周囲の桜がどんどん咲き始めてたちまち満開宣言、あわてて芸備線沿線の桜の写真を撮りに行きました。しかし……、花の写真は素人には難しいです。
◇季節の変わり目で体調を崩し、身体がだるくて鼻がぐずぐず。コロナを心配したが熱はなく、猫の毛アレルギーだった頃の症状に似ている。どうやら、この歳になって花粉症デビューしてしまったらしいです。やれやれ(苦笑)。
◇毎月最終日曜日(予定)に少人数で将棋を楽しんでいます。興味のある方はどら書房・赤川まで連絡を。

第260回

くんちいち

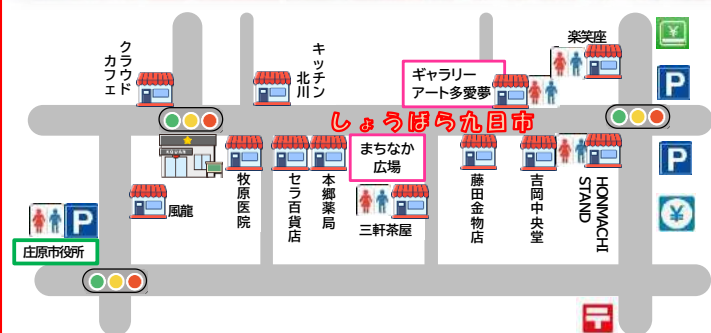
しょうばら九日市

出店一覧(順不同)

- | | | |
|-------------|------------|----------------------|
| *文屋 | *農楽会 | *克國水産 |
| *お福 | *二八そば加工所 | *久代水産 |
| *郷屋 | *17KITCHEN | *くんえん工房 香豚 |
| *工房アム | *アーミツシュ | *どんぐりーず |
| *ぬくもり | *ふくふく牧場 | *田崎屋 |
| *ちくちくはうす玉手箱 | *満じいの手打ち蕎麦 | *佐藤園芸 |
| *和み屋 | *とらぢ | *TSUDA(中古レコード他) |
| *クラフトショップ | *健康企画グループ | *てしごと比和(そば茶、手作り石けん他) |
| *くららおばさん | *さだっさ | |
| | *里山キッチンほっぺ | |



2023年
5月9日(火)
9:00~13:00



TOPICS

- ★市民ギャラリー「アート多愛夢」
5月8日(月)~5月10日(水)10時~15時
植物の細密画作品展(自然を見つめよう会)
- ★楽笑座「うた声喫茶」休止
- ★どら書房→休憩所あります!!
- ★風龍→九日市スペシャルで餃子200円!
- ★HONMACHI STAND→コーヒー100円引き
- ★カフェクラウド→タピオカドリンク100円引き
九日市特製ピタサンド600円

*出店申込みは、【毎月20日締切】 コンパネ1枚スペース1,000円~
九日市愛好会事務局 TEL/FAX(0824)72-8285
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10 (楽笑座内)

【ホームページ】
<http://www.kunchi-ichi.jp>

